

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	人間福祉学部
大項目	0 理念・目的
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 社会福祉、教育、健康、国際援助関連の実践現場や企業において、人間福祉に関する専門的な価値・知識・技術を身につけて働ける人材や、それら領域の研究職を目指す人材を養成する。	→社会福祉士、精神保健福祉士の国家試験資格合格率、中学校・高等学校教員免許取得者数、公務員試験合格者数、スクール・ソーシャルワーカー修了証発行数、初級障害者スポーツ指導員資格・キャンプインストラクター資格取得者数、福祉・健康・教育関連施設・機関・企業への就職率、福祉・健康・教育国際援助関連NPO・NGO団体への就職率、大学院進学率、社会起業の立ち上げ数。	→	→	B	B	B
2. 学部の使命と目的が学部学生や保証人に周知されているか、アンケートを実施し広報活動の効果を測定する。	→報告書の作成。	D	C	C	C	C
3. 学部の固有性および特色について定期的に検証する。	→ワーキング・グループの設置と検討回数、および報告書の作成とその公表の部数。	C	B	B	B	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 「社会福祉、教育、健康、国際援助関連の実践現場や企業において、人間福祉に関する専門的な価値・知識・技術を身につけて働ける人材や、それら領域の研究職を目指す人材を養成」という目標に照らして、日々の教育や就職活動支援等を通じて学生の支援を行っている。特にインターンシップや社会貢献活動などの実践教育に重点を置き、実践教育支援室を中心に、多くの取り組みを進めている。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 社会福祉学科生の社会福祉士資格取得など、3学科ともに、その専門性を活かした進路を選ぶ学生が多く、また一般企業や地方自治体等への就職を含む学部の就職率は2013年度卒業生で97.6%と他学部に対しても高く、学生の就職活動に取り組む意欲も高い。また大学院進学も一定数確保できている。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か これまでの取り組みの深化を図るとともに、よりきめ細かく、学生に側に立った指導を充実していく必要がある。</p> <p>その他</p>	☆
目標2	C	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 学部のミッションや目標等を教育懇談会等を通じて保証人に周知し、日々の講義や学部イベント等を通じて学生に周知する機会は豊富にあり、ホームページ等を通じて社会にも発信している。アンケートの実施や広報効果の測定については未着手である。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 一般的に、学生の学部への求心力は高く、授業時間外の学部イベントへの学生参加数も多く、人間福祉学部の学生が中心メンバーとなる学生団体の活動も目覚ましいものがあることに表れているように、学生への学部ミッションの浸透は誇るべきものがある。その効果の具体的な測定については課題である。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 学生の学部ミッションへの理解度についての客観的な測定方法の検討は、今後の課題である。</p> <p>その他</p>	☆
目標3	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 学部の固有性についての検証は、ホームページを通じて周知を図っていることにとどまっている。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 学部創設7年目であり、多くの教員が創設時から引き続き在籍していることから、学部の固有性については周知されており、さらに創設5年目にカリキュラムの大幅な改正を行う際に確認をする場があった。しかしながら、今後、教職員の入れ替わりが進むなかで、その継続性が課題である。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 学部の固有性や特色の検証については、その手法も含めて、今後の課題である。</p> <p>その他</p>	☆
備考			☆